

牛白血病ウイルス(BLV)の感染拡大防止のための総合的衛生管理手法の確立

研究期間	平成 22 年度～平成 24 年度
課題番号	2207
研究実施機関	(独)農業・食品産業技術総合研究機構(動物衛生研究所) (地独)北海道立総合研究機構畜産試験場 広島県総合技術研究所畜産技術センター
研究概要	<p>近年我が国では、牛白血病の発生が増加傾向にあり、原因ウイルスの特性から、ワクチンはなく、有効な治療法も存在しないため、本病の対策には、的確な衛生管理手法を確立し、感染拡大を防止することが重要となります。</p> <p>そこで、本研究では、感染牛と非感染牛の分離飼育等の飼養管理による感染低減効果の評価、乳汁による感染伝播リスクの評価等を行い、その評価結果をとりまとめました。</p>
研究成果の概要	<p>牛白血病ウイルス(BLV)の水平感染リスクは吸血昆虫によるものが最大であると推察され、また、感染牛と非感染牛の分離飼育が本病の感染予防に効果的であることが示唆されました。また、感染リンパ球を含む初乳や常乳を介した BLV 伝播が成立することを確認しました。さらに、受精卵移植技術を用いることで、BLV 感染牛から非感染牛の後継牛を作出できることが明らかになりました。</p> <p>また、本課題の実施により得られた知見及び国内外の牛白血病対策についての情報を収集し「牛白血病ガイドライン」の素案を作成しました。</p>

(注)研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載